

多摩川の名脇役

多摩川の堤防と桜並木を今も見つめる

5. 「多摩川治水記念碑」 (東京都大田区田園調布)

これまでもこの名脇役シリーズで度々登場してきた多摩川改修工事 (大正7:1918～昭和8:1933年) の完了を記念してたてられた多摩川治水記念碑。

丸子橋のたもとに堂々と建つ記念碑建立に携わる、多摩川下流部の治水と、桜並木の歴史をご紹介します。



(左から時計回りに)

多摩川治水記念碑／浅間神社／愛櫻碑／玉堤の桜並木 (写真-玉堤の桜並木:H15年/他:H16.4撮影)

目印の「アミガサ」をかぶった人々が「一刻も早く多摩川に堤防を」と訴え、神奈川県庁に押し寄せた「アミガサ事件」をきっかけに実を結んだ多摩川改修工事。

多摩川でも特に出水による被害の大きかった河口から、この記念碑がたつ場所より少し上流の二子橋までの22kmを改修し、堤防を整備しました。

大正7(1918)年からはじまり昭和8(1933)年に完了した大規模な治水工事を記念して、昭和11(1936)年6月丸子橋のもとに国が建立したのが、この多摩川治水記念碑です。高さ約4mの堂々たる碑の表には、京浜河川事務所（当時:多摩川改修事務所）の初代事務所長を務めていた辰馬鎌蔵氏による書が、裏には工事にたずさわった人々の名前が刻まれています。

治水記念碑のかたわらには、寄り添うように史跡愛櫻碑（あいおうひ）が建っています。

昭和4年(1929)年3月、多摩川下流域に住む有志の方々によって結成された「大多摩川愛桜会」が、朝日新聞社の協力をうけ「完成した堤防の補強を、そして美しい多摩川に。」との願いを込めて、約4,000本の桜を植樹したそうです。

そして、その植樹を記念して昭和5(1930)年11月に建立したのがこの記念碑です。

その桜並木は今の倍ほどの距離も続いていたと言われていたようですが、朝鮮戦争(昭和25:1950～昭和28:1953年)の勃発により、近くにあった三菱重工の工場が米軍戦車の修理工場に指定され、その戦車を運ぶために品鶴線（当時の貨物線。現在はJR横須賀線が通る）の引き込み線を通すために、かなりの桜が切り倒されます。

やがて戦争が終り、人々の心にもゆとりが戻ったのでしょうか、かつての桜並木を復旧しようと、大田区西六郷から下流の羽田本町までの間に、京浜急行電鉄(株)より寄付された約1,000本の桜を植樹しました。終戦2年後の、昭和30(1955)年の事です。

しかしその桜も、引き込み線の撤去と害虫による被害のため多くが枯れてしまいましたが、再び昭和34(1959)年、東急電鉄(株)より約200本の桜が寄付され、ちょうどこの多摩川治水記念碑がある辺りに新たに植樹されました。

そしてこの2つの碑を守るかのように建つのが、鎌倉時代の創建と伝わる浅間神社（せんげんじんじゃ）です。

何かの因縁でしょうか、この神社のご祭神は「桜の花が咲き匂うような」と言われる木花咲耶姫命（このはなさくやひめのみこと）で、社紋も桜です。

多摩川の堤防を守るために植えられた桜並木。その桜を見に訪れるたくさんの人々。そして、桜並木の歴史と共に多摩川と多摩川の堤防をみつめ、今も丸子橋のもとに堂々と建つ多摩川治水記念碑。

春、咲き乱れる堤防沿いの桜並木を見たとき、「あばれ川」と呼ばれる多摩川とその治水の歴史にも思いをはせてみて下さい。

* アミガサ事件から多摩川改修工事に至る経緯については4.有吉堤をご覧ください。